西瓜も無理に当てたのでしよう。いずれも中国の西域かち来たという意味です。日本では水瓜と書く場合もあります。

このように野菜の字を見るとその伝来地が一目瞭然です。

さつま藷は九州薩摩国から来たからです。鹿児島へ行くとリユウキユウイモといっています。沖縄では方言でカンモ、正確にはカライモ、字に書くと唐藷です。

シロウリを越瓜と書きますが、越の国は現在のベトナムです。こうしてみるとこの野菜が伝搬してきた状態がよく判ります。

隠元和尚伝来のインゲン豆のように持ってきた人の名で呼ばれる野菜もあります。下がっている豆はササゲで、空を向いていればソラマメです。鉈の形をしているからナタマメです。

江戸・東京の地名を付けた野菜　『東京ゆかりの野菜』という本を編集していて由緒ある地名が故意に消されているのに気付きました。実に残念なことです。

地名が無くなった以上に野菜もなくなりました。畑が無くなったからです。

それでは昔から東京周辺で作られていた野菜の現状についてお話ししましょう。

大井ダイコン・キュウリ、品川カブ・ネギ・ニンジンは地名は残っていますが、野菜は明治前期に消滅しました。

居留木橋カボチャは地名・野菜ともありません。品川区の居木橋・居木神社は留がないのにイルキと読まして残っています。

馬込半白キュウリは地名はありますが、野菜は昭和中期に消滅しました。馬込大太三寸ニンジンは地元では都市化で無くなりましたが、優良品種なので各地で作られています。いま流行の短いニンジンです。

大蔵ダイコンは地名・大蔵とも残っています。大蔵では都市化でダメですが、各地で作っています。

千歳ハクサイは地名・地名共ありません。時代が大型を要求しなくなったからです。

高井戸キュウリ、地名はありますが、野菜は昭和中期に消滅しました。

内藤カボチャとトウガラシ、地名はありますが、野菜は明治中頃に消滅しました。内藤町は大部分が新宿御苑で住民は十七戸きりありません。

鳴子ウリはありませんが、地名は成子坂となって残っています。今も成子天神の境内に鳴子稲荷が在るのはうれしいです。

豊島枝成キュウリは区名でありますが、野菜は昭和中期に消滅しました。枝は慣用語でサスと読みます。

中の宮ゴボウ、地名は現在の練馬区春日町ですが、昔はれっきとした村でした。バス停の名に残っています。ゴボウは早生種として今も全国で作られています。

練馬ダイコンは地名・野菜とも健在です。名称は野菜の固有名詞で、正式には練馬大根郡です。交配の親として使われ全国に分布しています。漬物の大根はみな練馬系です。

志村みの早生ダイコン略して「みのわせ」として全国で作られています。地名も残っています。

雑司ヶ谷カボチャとナス、地名はなんとか残りました。カボチャは明治中期に消滅しました。ナスは山茄ともいい大正前期に消滅、この系統は昭和中期まで杉並区で栽培されていましたが、その後なくなりまししした。

駒込ナス、地名は現存. 野菜は明治後期に完全消滅しました。

滝野川ゴボウ・ニンジン・ネギのうちゴボウ・ニンジンは現在も全国的に作られています。ネギは明治に消滅しました。地名は残っています。

谷中ショウガは地名・野菜とも両方残っています。料理屋などで焼魚のわきに付けるショウガのことを「谷中」といいます。

尾久夏ダイコンと田端瓜、地名はありますが、野菜は明治前期に無くなりました。

三河島菜と枝豆、菜は江戸・明治と漬菜の代表でしたが明治前期に消滅しました。形状など不明で幻の漬菜です。枝豆も明治期に消滅しました。地名も三河島事故以後消滅。

西新井漬菜、地名は弘法大師のおかけで健在ですが、野菜は漬物の衰退で殆んど消滅しました。

栗原山東菜、地名は足立区に残っていますが、野菜は都市化で昭和初期に無くなりました。

岩淵ネギは江戸時代から著名でしたが、明治前期に消滅しました。時々岩槻ネギと間違えられます。徳川時代に野菜が栄えたのは宿場の近くです。岩淵は中世以来の宿場です。

汐入ダイコン、地名は荒川区南千住となりました。大根は大正期に無くなりました。

荒木田ダイコン、地名は荒川区町屋辺にありましたが、現在消滅。壁土が有名でした。大根は明治期に無くなりました。

砂村ネギ・ニンジン・丸ナスはいすれも地名・野菜とも無くなりました。砂村は砂の村ではなく、砂村新左衛門という人が開拓した新田です。大正十年、砂町になり、今は北砂・南砂・東砂と味気ない町名になりました。野菜は明治中期に消滅しました。

亀井戸ダイコン、地名は亀戸と二字になった。大根は交配の親として残っています。

（次頁につづく）